

博士課程教育リーディングプログラム 平成29年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
機関名	滋賀医科大学	全体責任者（学長）	塩田 浩平
類型	オンリーワン型	プログラム責任者	山田 尚登
整理番号	U03	プログラムコーディネーター	三浦 克之
プログラム名称	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

非感染性疾患（Non-communicable Disease : NCD）は21世紀の健康問題の核心的課題であり、がん、脳心血管疾患、及びその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な問題となっている。本プログラムの目的は、わが国及びアジア新興国における健康問題の解決と健康寿命の延伸を実現するための産官学におけるグローバルリーダー育成を行うことである。

本学はこれまで我が国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を果たすとともに、国際共同疫学研究においても国内の他の研究機関の追随を許さない実績を持っている。更に、平成25年10月に「アジア疫学研究センター」が新築・設立されたことで、更なる研究・教育活動が開始されている。本プログラムは、これらの実績により長年蓄積された疫学研究フィールド、疫学データベース、疫学・生物統計学・生活習慣病医学分野での学内の人的資源、国内/国際共同研究・アジア提携校の人的ネットワーク、アジア疫学研究センターという研究教育基盤を最大限に活用して、NCD超克を中心課題とした大学院教育システムの再構築を行い、国内外の産学官の広い分野において活躍し国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」を養成する。

本学では、本プログラムを契機として大学院教育を以下の点で大胆に改革することとしている。

- ①特任教員等として海外で活躍する外国人教員を積極的に雇用し、英語を中心とする教育により海外からの留学生を含めて国際的に活躍する人材を育てる。
- ②短期/長期研修を充実して、講義から研修への教育手法の転換を図る。アジアの公衆衛生現場でのフィールドワーク、民間企業や保健医療行政機関、国際機関でのインターンシップ、海外大学での研究参加などを必須単位とし、現場で活躍する力を付ける。
- ③短期/長期研修での体験を材料とした報告会、シンポジウム等において英語での討論の場を多数作り、国際的な場で討論する能力の向上を図る。
- ④以上の取り組み、および、関連分野のトップリーダー招聘、学生主体の教育研究プロジェクト実施を通して、産官学におけるNCD対策のグローバルリーダーを育成するプログラムを確立し、さらに大学院全体への横展開を行う。

2. プログラムの進捗状況

・平成30年4月入学者までを含め、計30名（日本人10名、留学生20名）の学生が在籍している。平成28年春から社会人入学を開始し、これまでに5名が入学した。また平成30年春入学募集には、提携校入試、一般入試の他に、国費奨学生のリーディング優先枠を実施しこれによる留学生が2名入学、さらに2017年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」での学生推薦も完了し早ければ平成30年秋入学から入学する予定である。これは、文部科学省の2017年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に、「発展型アジア非感染性疾患（NCD）超克SUMS留学生プログラム」として採択されたもので、これは、リーディングプログラムの教育プログラムと、従来の医学専攻先端医学研究者コースのカリキュラムを融合した教育プログラムを留学生を中心に実施するもので、プログラム終了後も引き続いて優秀な留学生を確保することができる。このプログラムは、疫学のみならず医学全般にわたって、日本人学生とともに切磋琢磨することになり、「アジアを変えるリーダー」「アジアのNCD対策を牽引するグローバルリーダー」となる人材を創出することを目指す。

・平成29年度には、1か月から2か月の海外研究機関短期研修（インターンシップ）および健康関連産業研修を、オーストラリア・ジョージ研究所、アメリカ・ノースウェスタン大学、イギリス・インペリアルカレッジ、中国・北京大学、WHO神戸センターに計6名派遣した。さらにアジア・フィールドワークとして、夏にはベトナム、インドネシア、ケニアに3名、冬には東近江市健康福祉センター、国立健康栄養研究所、オムロン(株)京阪奈イノベーションセンター、中国医科大学にて4名が研究実習を行った。各施設の特徴ある活動やデータ、知見に基づいた実質的なインターンシップを実施し、学生の今後の研究計画に関する有益な討論もなされた。オムロン(株)京阪奈イノベーションセンター、WHO神戸センターにおいては、行政や企業での研究現場を体験することで、産官学におけるグローバルリーダーという将来にむけた知見を深めることができた。これらの研究施設での研修を今後も継続し、共同教育していく体制を確立している。またバングラディッシュ国立心臓財団病院・研究所とは、平成29年度インターネットを使った授業と学生指導を実施した。さらにはアジアフィールドワークの実施準備と共同研究の計画などで、共同教育の体制を構築している。

・修了後に産業界や行政でも活躍する人材を養成するためのカリキュラムとして、上記の公衆衛生現場や企業での研修の他に、実際に行政や産業界の第一線で活躍されている外部講師陣も迎え、講義だけでなく、意見交換や議論を行うなど、学生ひとりひとりがグローバルリーダーと直接交流を深める機会を設けることとした。平成30年2月に学生主体でオムロン(株)代表取締役CTO宮田喜一郎氏を招聘して、講演テーマ「社会課題解決のためのイノベーション創出」を開催した。本学の産学官連携による教育・研究・診療に役立てるとともに、講演後の学生との懇談会も実施し、その姿勢から直接リーダーシップについて学ぶことができた。現在学生主体セミナーとして、カゴメ株式会社の企業人の招聘する企画も進行中であり、これも国際的、かつ産学官の分野横断的な視点・思考を養うことを目的としている。さらに、グローバルリーダーとしてさまざまなフィールドでのコミュニケーション能力を高めるため、本年には、リーダーシップ論が専門でありグローバル人材研修も行っている講師を招聘して、ディベート形式の授業をカリキュラムに組み入れており、5月に実施予定となっている。

このように、本プログラムは当初の計画を達成するための運営体制整備、教育実践、大学院改革を力強く進めている。